

文・編集・発行/斉藤新緑 Tel 〈0776-82-1141〉 Fax 〈0776-82-2261〉

【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F

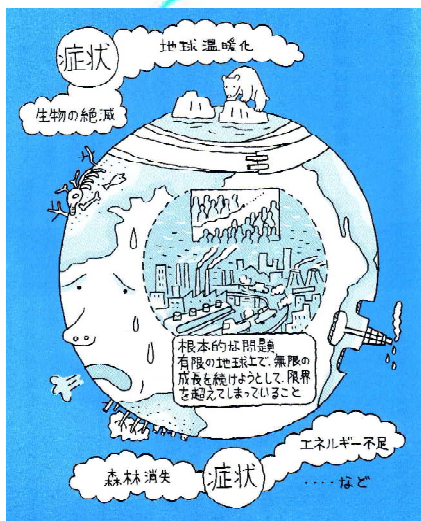
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp

【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん

VOL.59

人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。



エネルギー不足や地球温暖化などの問題は、病気の症状に過ぎません。根本の問題は、地球の限界を超えて成長していることです。

根本的な問題を解決しなければなりません。

「地球1個分」を超えた行き過ぎの状態をいつまでも続けられるはずはありません。

「現状どおり続けていけないこと」を認識し、この根本的な問題を

「地球1個分」を超えた行き過ぎの状態をいつまでも続けられるはずはありません。

「現状どおり続けていけないこと」を認識し、この根本的な問題を

「地球1個分」を超えた行き過ぎの状態をいつまでも続けられるはずはありません。

「現状どおり続けていけないこと」を認識し、この根本的な問題を

「地球1個分」を超えた行き過ぎの状態をいつまでも続けられるはずはありません。

「現状どおり続けていけないこと」を認識し、この根本的な問題を

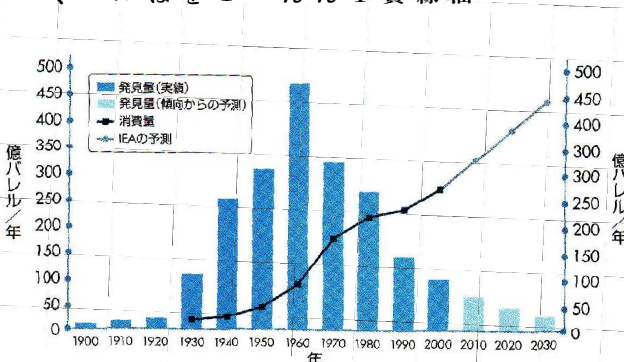
「地球1個分」を超えた行き過ぎの状態をいつまでも続けられるはずはありません。

「現状どおり続けていけないこと」を認識し、この根本的な問題を

石油のない時代がやってくる

解決していかなければなりません。

ピーク・オイル



石油の生産量がピークに達し、その後減っていく時点を『ピークオイル』と呼びます。『ピークオイル』はすでに過ぎた」と考える研究者もいるようです。

需給バランスが大きく崩れると、石油価格が高騰し、燃料高

ますが、これは決して偶然ではなく、政治情勢や投機的な理由による変動はあるにしても、基調としての石油価格高騰は、需給バランスの崩れを示唆していると考えられています。

石油が安い時代には「生産コストの安い海外で作ってもらって、日本に輸入する」というやり方が合理的だったかもしれないませんが、これからは「いくら海外の生産コストが安くても、輸送コストが高すぎて輸入できない」状況になって

や原料高をもちたらし、石油や石油由来製品がなくてはならない企業にとって、大きな打撃となります。農業とて例外ではありません。近代農業は、大量のエネルギーを消費して運営されています。トラクターやトラックの燃料、温室用のエネルギーをはじめ、化学肥料も石油をベースに作られています。すから、実は1カロリーの食糧を作るために、10〜15キロカロリーの化石燃料をベースとしたエネルギーが必要ですが、石油の価格が上がり、食品の価格も上昇するという事です。世界に飢えが広がったり、先進国でも深刻な食糧問題が起こったりする可能性もあります。

いく可能性があります。このように、石油価格の上昇の影響でさまざまなコストが上昇していきます。

日本は工業製品の輸出を経済の大きな柱としていますが、輸出先の国々でも、石油価格は上昇していきま

国のかたちも変わってくることでしょう。現在、人口の密集している都市部の人口密度は下がってくる考えられます。なぜなら、大都市に大量の物資を持ち込み、大量の排出物を持ち出すという、都市の維持コストが高騰していくからです。

「石油を使いたいだけ使える」社会ではなくていきます。したがって、社会の構造を新しいエネルギー源をベースとした構造に変えていかなければなりません。日本はエネルギーの80%以上を輸入の化石燃料に頼っており、残りのかなりの部分も輸入ウラン燃料に頼っています。ウランを除くと、日本のエネルギー自給率は4%しかありません。

新しいエネルギー源をベースとした社会構造に、いち早く転換していかなければなりません。同時に、自分たちの行動や習慣を変えていく必要があります。

(エネルギー危機からの脱出より)



漁に出れん

燃油高騰がもたらす深刻な漁業経営



オイル・ショック

史上空前の原油高のあおりで、産業界はいまや壊滅的な打撃を受けていますが、なかでも、経費の半分近くを重油代が占めるという漁業の経営事情は深刻で、このまま値上がりが続けば、年内にも全体の二割が廃業、漁師五万人以上が失業し、漁獲高は最低三〇%ダウンするという衝撃的な試算まで出てきました。

七月十五日、切羽詰まった全国の漁船二十万隻は一斉休漁に入り、都内で決起集会を開催国に対して漁業補償などを求める要請書を提出しました。

重油自体が確保できないということも深刻です。

近年、経済発展によるインフレ下にある中国などアジア地域では産業用の軽油やジェット燃料が高値売れるため、日本の元売り各社は競って石油製品を輸出し利益を出すようになったということです。

さらに、これに拍車を掛けたのが米国へのガソリン輸出。日米両政府が、アメリカ国内のガソリン不足を解消するために、精製能力のたぶつく日本からガソリンを輸出することに合意しました。

日本国内の重油不足を横目に、輸出する方が儲かるからというのは、「エネルギー資源の安全保障」の観点からも問題です。

背景には、規制緩和により、「石油業法」が廃止されたことにより、「国内需要を守る義務がなくなり、完全自由化した石油製品の輸出もやりたい放題になった」ということです。

燃油高騰水産業緊急対策

緊急対策は、燃油高騰の非常事態に対応して



県の追加対策を求める県底曳網組合と漁政連

支援策と対応

原油高騰に伴う国・県の対策の内容が示されたものの、それがどの程度、漁業者等に有効なのかといえ、これら制度を利用できない人も多く、「尻のツッパリにもならない」という声も聞こえています。

無利子貸付け制度は、金融機関との個別の審査であるから、経営の悪い事業主は借りられないことになるわけで、本当に困っている人は救えません。

イカ釣り船などは、照明が必要なものもあって、売り上げの三分の二が油代ということで、重油の高騰は極めて深刻です。

9月から底曳網漁も開始されますが、今のままでは、船が出せないという切実な声も大きく、貸し付けを受けられるように窓口に要請することや、無理な場合は、原油現物支給など何らかの有効な緊急対策こそ求められています。

県議会に、漁業活性化政治議員連盟を発足しましたが、全力を傾注していきたいと思っています。

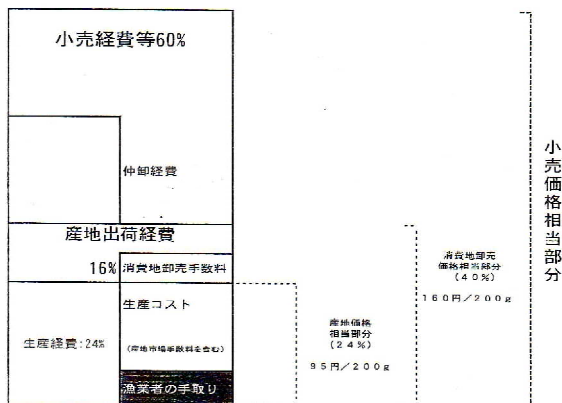
原油高騰に伴う影響は、産業界全体、国民全体に影響を及ぼしており、自ずから限界がありますが、目先の対策、来年度の対策、中長期の根本的な対策をきちんと整理して、展望のある取り組みが求められます。

福井県の原油・原材料価格高騰対策

- ▼漁業者向け緊急経営支援資金の創設(無利子貸付け) 枠5億円
- ▼漁業者直販さかな市の実施 百七十万円

1. 水産物の価格構造 (表1)

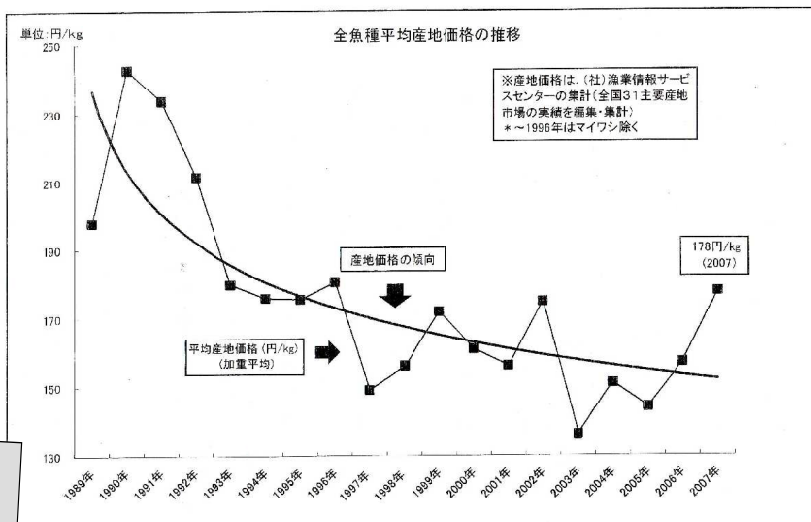
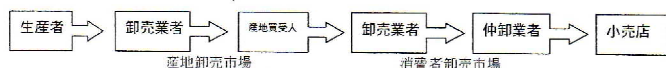
生鮮水産物の小売価格 (H17:水産庁調査) 401円/200g
(主要10品目※加重平均)



※ 主要10品目は、メバチ、マアジ、マイワシ、カツオ、マガレイ、マサバ、サンマ、マダイ、ブリ、スルメイカ の生鮮品

近年の燃油コストの上昇から、経費率が上昇し、実際に漁業者の手元に残るのは規模と業種により異なるが、漁業者の手取りは大幅に縮減している。

2. 水産物の流通経路 (2段階の市場経由等によるコスト増)



原油高騰対策を議論する福井県漁政懇話会

漁業活性化政治議員連盟を設立



県漁連、県漁信連など漁連関係役員と漁協を持つ当該地域の県議会議員とで構成する福井県漁政推進懇話会総会が開催されました。

漁業を取り巻く環境は、極めて厳しい中であって、原油高騰がタメ押しのように重くのしかかってきました。

このままいけば、日本の漁業が壊滅してしまう瀬死の危機にあるといつて過言ではありません。

地球温暖化、環境悪化による資源の減少、漁獲高の低迷、漁価格の低価格安定、原油・原材料高騰などによる漁業者の経営悪化が進んでいます。

このような危機感あふれる状況の中で、進退懇話会が開催

され状況認識の把握と今後の対策について協議しました。

役員改選では、私が会長に選出されました。

このような場面で、会長に就任したことの責任を痛感しており、従来の懇話会としての形式を更に発展強化したいと思っています。

そうした観点から、8月19日福井県議会に漁業活性化政治議員連盟(漁政連)を設立しました。

福井県の漁業を守り、漁師が生計を確保できるようにするための、有効な対策や中長期的漁業政策について、しっかりと調査・研究し、積極的に提案していきたいと思っています。

福井県漁政推進懇話会、漁政連会長に就任して

漁業を守るために

ふるさと納税制度を超えて

ふるさと存続運動を展開しよう



一般質問は、インターネット福井県議会録画中継でご覧になれます。

従来から、地方などでは、成人までの教育に税金を注いでも、就職する(「税金を納めるようになる」)にあたって他地域に転居してしまつたために、注いだ税金分の「元が取れない」と言う声がありました。

地方公共団体の長などから、都会に転出した者が成長する際に地方が負担した教育や福祉のコストに対する還元の見込みがでないか、生涯を通じて受益と負担のバランスをとるべきではないかとの意見が出されました。成長して生まれ故郷を離れても、その地域に貢献できる制度として、「ふるさと納税制度」が誕生しました。

しかし、それは、「ふるさととは遠きにありて思うもの」という室生犀星の詩のように、ふるさとを離れることが前提となつてしまつていふようにも思えます。

グローバルゼーションのもとで目先の利益に眼を奪われ、「ふるさと」を見捨てれば、地域はもぬけの殻となり、限界集落となつてしまひます。

ふるさとには近づくつもりで居るもの

北欧で見受けられる「ふるさと」を残そうという「ふるさと存続運動」は、グローバル化とともにローカル化が進むというグローバルゼーションの動きでもあります。

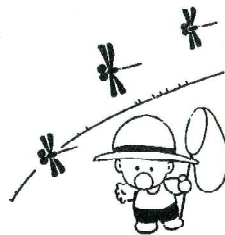
ノーマライゼーション、高齢者や障害者と健常者が助け合つて暮らせる社会づくりや、クオリティ・オブ・ライフ(人間的尊厳を保つ生活)が、掛け声もなく静かに広がっています。

最も持続可能にしていかねばならないものは、人の生命であり、生活だといふ地域社会の再生の機軸は農林水産業にあると考えます。ふるさとを守ることは、

山、海、田園を守ることであり、それには、食と環境が重要です。

環境省の地球温暖化影響総合予測プロジェクトチームはIPCCのシナリオを基に水資源、森林、農業、沿岸域、健康の分野への温暖化影響を分析しました。

それによると、このまま温暖化が進めば、2030年代には豪雨の増加で洪水被害額が年間1兆円となつたり、2040年代にはコメの収量が減少に転じたりするなど、これまで比較的影響が小さいとみられていた温帯の日本でも被害が深刻なことを具体的に示した内容となつてい



いくのが速いのか、防止策が速いのか、そのスピードを競うような切羽詰った状況にある。

政府の「地球温暖化問題に関する懇談会」において、懇談会委員の方が、「50年後、100年後、私たちがこの世にいない時代に、今ここで私たちは何を残せるだろう。そんな風に考えていきたい。」

そのためには、日本を転換し、コンクリートを取り除き、自然に戻す取組みこそ進めるべきである。耕地についても、人工的な大規模化や大型のかがい事業ではなく、水田や畑に生き物が戻るような環境と両立事業を考えなければ、ふるさとに未来はない。

持続可能な地域社会を目指すヨーロッパの「ふるさと」存続への運動の合言葉は、環境と文化です。工業によって破壊された環境を取り戻し、工業社会が成立する前に存在した文化を復興させることにより地域社会を再生しようとしてい

自然から切り離された巨大都市の建設その都市へ地方から人や資源を吸い上げるための海や山を埋め立て、切り崩す公共事業、それに伴う農業や耕地の荒廃は、もはや限界に達しています。

地球は待ってくれません。「クールビズから始めよう」といったフォアキャスト的手法では間に合わない。地球が崩壊し

環境基本計画の中間報告では、自然環境に配慮した工法を積極的に採用し、また、地域と協働した取組みを行うこととしているが、三面張りや整備した護岸を自然環境に配慮した護岸への改修を進めていく必要があると思

「福井県環境基本計画」の中間報告に記載された目標や施策は、これまでの実績を踏まえ、現状から積み上げられたものになっており、10年後、50年後の長期的な展望がよく見えません。環境基本計画こそ長期的な展望の下、施策を展開するよう求め

我々が「ふるさと」を感じる景观の一つに河川がある。きれいな水を体内に入れ健康でいられるために、水を美しくする努力をしたい。そのためには、国土の血管である川を美しく保つ必要がある。しかし、河川については、これまでコンクリートを使用した無機質な三面張り工法による整備を進め、自然のままの岸辺が失われてきた。

公共事業もこれまでのパラダイムを転換し、コンクリートを取り除き、自然に戻す取組みこそ進めるべきである。耕地についても、人工的な大規模化や大型のかがい事業ではなく、水田や畑に生き物が戻るような環境と両立事業を考えなければ、ふるさとに未来はない。

環境基本計画の中間報告では、自然環境に配慮した工法を積極的に採用し、また、地域と協働した取組みを行うこととしているが、三面張りや整備した護岸を自然環境に配慮した護岸への改修を進めていく必要があると思

また、多様な生き物の繁殖場所やふるさとの自然景観として河川が本来有している機能をよみがえらせるため、住民の積極的な活動を促進していくべきであり、その具体策を求めるものである。

環境教育を 学校評価の対象にすべき

知事は、ふるさとから離れ都会に暮らす人から寄付金を送る「ふるさと納税」を積極的に提唱されているが、私はさらに踏み込んで、若者たちがふるさとに定住することを目指したビジョンを構築すべきと思います。

新幹線や高速道路の建設は重要だが、新幹線と高速道路ができれば、ふるさとを存続できるというものではない。預金180億円、借金8000億円という綱渡りの財政状況で、建設に伴う重い負担のしかかっている。

次の時代のため、子孫のために何が最も重要な投資なのか、従来の延長線上ではなく、しっかりと検証する必要がある。

現在、市場では「旺盛な消費拡大に供給が追いつかない」「受給逼迫傾向が強まり、穀物、原油、鉱物資源などの価格が高騰し、あらゆる面で国民生活を直撃している。20世紀に経験した石油危機や食糧危機と異なり、現在は、「資源の枯渇問題」と「地球温暖化」という2つの危機に直面している。

これまで食料は、太陽の光と水、土地があれば再生可能な無限の資源と見られてきた。しかし、最近では、水や土

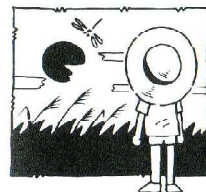
地の制約により食料も有限性を帯び、既に「カネさえ出せば何でも手に入る時代は終わった」といわれている。「食料の有限資源化」である。

これらの危機は不可逆的なものであり、我々ができることは省エネルギー、省資源、環境問題に取り組むことで、2つの危機が進む速度を緩める他ない。

この他にも、人口減少、東京一極集中、格差拡大など、日本社会は将来に青空が見つけ出しにくい閉塞感に包まれている。従来のスタイルからパラダイム転換することが求められている。



「何でもあるが希望がない国」と作家の村上龍は書いているが、「ふるさと福井に残って頑張ろう」「自分の手でふるさとを守ろう」と若者に希望を持たせ、意欲を掻き立てるためにも、環境と食の大切さを若者にメッセージとして届ける必要がある。



我々の子孫に「ふるさと」を受け継いでもらうには、環境や農業が重要である。現在、環境、農業の分野で計画を策定しているが、それぞれの計画に「ふるさとを守り、受け継ぐ」という思想、概念を位置付ける必要がある。

ふるさとを存続することは、子ども達を育てていくことでもある。まず、ふるさとを守るための環境の重要性を十分教育の現場で子ども達に伝えていくべきである。それには、まず、地球温暖化のメカニズムや我々のふるさとに与える影響について、IPCCの報告書などを活用し、科学的根拠に基づいて環境教育を実施していく必要がある。

何でもあるが希望がない

現状と将来に対する影響を認識することで、今、我々がどういふ暮らしをするか、どういふ社会を営むのが、100年後の人たちが生きる世界の温度を決めてしまうという時代に私たちは生きている。

「うらら、その時分には死んでもてるで、どうでもだんね」といふ人を目覚めさせるためにも、早く行動を起こさなければ間に合わない。

「俺たちに明日はない」ということを、子ども達に理解させ、行動してもらうことが重要である。それにより、自然ふるさとを守る。

私たちの子どもは、家の手伝いをし、「小さな働き手」として当てにされてきた。しかし、



また、農林水産業、農山漁村という場の持つ教育力について提起する。

「人類最後の戦い」に挑戦するような構えを持つことは、大きなインセンティブとなりましょう。このような活動を学校ごとに積極的に取り組んでいくべきと考え、学校でどう教えることも難しい。

学校教育法の改正により、個々の学校が自らの教育活動を評価する「学校評価」が義務付けられたが、環境教育の活動実績を学校評価の指標として設定すべきである。

農漁村の持つ教育力を活かせ

最近の子どもは、家の手伝いをすることがなくなった。小さな頃から大人と同様の消費者として扱われ、カネさえ出せば、何でも手に入ることを覚えてきた。子どもが生産労働や家事労働から切り離されることで、子どもが労働を通して自然と対話したり、自己を確立していく機会が失われる。そして、消費者として損得だけを計算する子どもが育っていく。この根本のところが変わらない限り、学校でどう教えることも難しい。

子ども達に「働く」ことの厳しさ、楽しさ、充実感をいかに教えていくのか、学校における教育に加え、家庭や地域における教育が重要である。

今日の教育は、大学受験が自己目的化されるようになり、高校生たちは受験勉強以外の勉強に関心を示さない。大学受験のためのテクニック習得に多感な時代をささげる教育のあり方が才能を干からびさせる。公教育の荒廃は労働者の質を低下させ、失業率を高め、社会を不安定にする。

国では、教育農園、「子ども農山漁村交流プロジェクト」などの事業も展開している。

これらの農林水産業、農山漁村の持つ教育力を子どもたちの教育と地域づくりに活かす観点から、教育分野と農業分野が一体となった積極的な取組みを求めるものである。

ビジョンを肉声で



新緑の眼

知事は道州制反対を唱えるだけでなく

「道州制議論については、日本をよくしたいというような理想的な気持ちは分かるのですが、あまりにも抽象的であり、根拠があやふやで、都合のいいところばかりが論じられており、現実的な議論になっていないということです。」

（略）経済一辺倒の議論ではなく、それぞれ生活している国民のさまざまな課題、大都市問題、地方の問題、これは農業の課題なり集落の課題がありますが、これを一つ一つ地道に解決していくことが基本としてあるのではないかと思います。」（6月4日定例記者会見）

西川知事は国がすすめる「道州制」に明確に反対されています。

道州制ありき、道州制万能論

は極めて危険だと私も思います。市町村合併時に見られたような、「バスに乗り遅れるなどばかり、合併の後に何があるのか、自立再生するためにはどうしたらよいか」といった議論も検証もありません。上から言われ、合併しなさいと強要されるような行動をとることは許されませんが、地方分権改革を進めるために、国の機能の見直しをはじめ、国と地方を通じた国の行政システム全体の問題として検討すべき課題ではあると思います。

しかし、私が心配するのは、知事の特論はともかく、道州制に最も抵抗があるのは、中央集権での権力を手放したくない国の役人と政治家であり、そうした分権改革抵抗勢力を利用するものにならないかということです。

西川知事も委員となられた「ふるさと納税制度」においても手放しでは喜ばせませんでした。

本来、地方税収の偏在や財政力の格差の是正は、地方交付税で調整すべきであり、国の仕事です。また、住民税は、行政サービスを受ける住民が税を負担する「受益者負担の原則」であり、その観点から逸脱します（ふるさと納税を利用する人間は利用しない人間より安い納税額で居住地の住民サービスを受けられることになる）。東京一極集中に対する批判として

だされたものが、いつのまにか東京都もこれに参戦し、都道府県間のみならず、同一県内自治体間での奪い合いの様相も見せており、一定以上の金額を寄付した場合に特産品を贈呈する特典まで競わされています。

「国は地方（田舎と地方都市）の間のパイの争いを持っている」と東国原知事がいうように、「ふるさと納税」は、小泉前政権の「三位一体」改革で財政が疲弊した地方の財源にあててもらうというアイデアで、参院選挙前に登場したため、苦戦が予想される地方での「人気取り」政策ではない

道州制提唱者とも言うべき大前研一氏は、抵抗勢力を次のように見えています。

「役所も絶対に反対するだろう。何しろ役所にとっては道州制になって得することがない。天下り先が47から10前後になるのだから。今の都道府県の役所に行ってみれば分かるが、助役とか副知事とか局長のレベルで、いかに中央の人がはまり込んでいるか、もう驚きを通り越してあきれられるばかりだ。ところが道州制が実現したら、彼らのポストが減るから要らなくなるわけだ。総務省がかくくなく反対するのは明らかだ。」

道州制とは

戦後、地方制度は、基礎的な自治体である市町村と広域自治体である都道府県で構成されてきました。道州制は、この仕組みを変え、現行の都道府県を廃止し、全国を衆院選比例ブロック程度の規模の10余の道州に再編するということです。道州の仕事は、いまの都道府県の仕事の一部と国の仕事を合わせたものとなります。

仮に道州制が施行された場合、福井県の所属について地方制度調査会による区割り案は、9道州の場合は関西州に、11道州及び13道州の場合は北陸州、また、「熱論・合州国家日本」に掲載されている区割り案では、大前研一案が北陸道、平松守彦案が関東信越州、江口克彦案が信越北陸州とされている。明治初期には約4年半の間、嶺北は石川県、嶺南は滋賀県だった。

かとの、うがった見方もありました。

道州制提唱者とも言うべき大前研一氏は、抵抗勢力を次のように見えています。

「役所も絶対に反対するだろう。何しろ役所にとっては道州制になって得することがない。天下り先が47から10前後になるのだから。今の都道府県の役所に行ってみれば分かるが、助役とか副知事とか局長のレベルで、いかに中央の人がはまり込んでいるか、もう驚きを通り越してあきれられるばかりだ。ところが道州制が実現したら、彼らのポストが減るから要らなくなるわけだ。総務省がかくくなく反対するのは明らかだ。」

反対するのは県知事や役所の人間だけではない。マスコミが反対派に回るのも確実だ。なぜなら、地方のマスコミ、つまりテレビ局や新聞社も県単位で利権を持っているからだ。」

福井県は、栗田前知事も西川知事も過去官僚であり、現在官僚のときに副知事に就任されました。天下りともいえます。本意ではないでしょうが、西川知事の発言は、結果として

地方分権に抵抗する中央勢力を手助けしているように思えます。

私は、再三再四にわたって、知事に中長期ビジョンの作成を求めました。福井県のめざすべき展望が見えないからです。

ふるさと納税は賛成、道州制には反対、道路特定財源の維持は賛成、新幹線は欲しい、高速道路も欲しいと分野ごとの部分を切り取って発言されても、全体としてどうなのか、「合成の誤謬」と言われるように、部分部分は正しくても、全体ではつじつまが合わないことが起きます。

地球温暖化問題など成長の限界が見えはじめ、国も地方も福井県も借金で山で公共事業を増やそうにも、地方負担がでない、従来の拡大・膨張路線が破綻した状況で、何をめざしているか、もう福井県を創造するのか、目先4年間の計画（マニフェスト）では、福井県の元氣は「宣言」に止まってしまっている。

「ボロを着ても心は錦」、福井県は道州制に参加せず、多少貧乏でも人間性あふれる、みんなが助け合って生きるふるさとづくりをします。エネルギーも含め福井県の自給自足生活圏を確保し、協力協働の精神で頑張ります。よう、東京にいる人も帰って来て助けてくれなどといった知事の肉声が必要なのではないでしょうか。

県民に、夢と希望を与えることは、モノやカネでなく、安心して暮らせる福井県の未来像を示すことだと思います。

原発の耐震は大丈夫ですか？

た、もんじゅが運転再開を10月に予定してきましたが、ナトリウム漏れ検出器の誤作動、さらに通報遅れという信じられない行為があり、その対応のため2月以降に延期となりました。

地震が起きてみなければわからない

マイフレンド、紙面がなくなり
ました。原発問題は、国のエネル
ギー政策から展開しなければなり
ません。せっかく原発を語る機会
をつくってくれたこともありませ
うし、今日、エネルギー政策は重要で
あるので、原発とエネルギー政策に
ついて、次号から書きたいと思い
ます。また、お便りください。

蟻のお話

蟻が大きな群をなして移動する場合、途中で水の流れにぶつかることがある。はじめ蟻の群は、向こう岸へ渡るべき場所を探すために、流れに沿って上ったり下ったりする。そして最も渡りやすい場所を見つけると、先頭の勇敢なやつが、どしどし水の中へ飛び込んでゆく。そして向こう側へ渡ろうとする。



だが、次から次へ押し流されて下流へ見えなくなっていく。それでも後から後からと、飛び込む。水面には、ゴマをまいたように蟻が流されてゆく。やがて、その中の強いのが一匹、とうとう向こう岸にたどりつく。そして岸からたれ下っている草の葉先へうまく泳ぎつく。だが岸へ這い上ろうとはしないで、そのまま、草にしがみついている。すると、後からまた一匹、また一匹と同じ草の葉先へ泳ぎつく。どれも這い上らないで、前の蟻の尻にしがみつく。そういう蟻が、つぎつぎと増えてゆく……。

そして黒い蟻の紐がしだいに流れを横切って、斜めに細長くこちら側の岸へのびてくる。とうとう紐の先が、こちらの岸の草の根にとどき、ついに蟻の細長い浮橋が流れの上にかかった。と思ううちに、こちらにひかえていた蟻の大部分が、その橋の上をどしどし渡り始める。蟻の大部分は橋になっている仲間の頭の上を、踏み越え踏み越え渡る。そしていつの間にか何万とも知れない大群が、みごとに向こう側へ渡り終わった。

だが全部渡ってしまった後になっても黒い蟻の橋は流れの上に浮いたまま、じっと動かずにいる。よく見ると、橋になった蟻は、一匹残らず死んでいるのだ。強い蟻の団は、このようにして死ぬまで橋をくずさないで、自分たちの属する大群を、向こう岸へ渡したのである。

新緑の気ままにトク

夏が来れば思い出すのは、「遙かな尾瀬」というのは、歌の文句。私が思い出すのは、「夏休み」と、「戦争と平和」。



でも感動する。かつて、ある有名な外交官がアメリカの故ケネディ大統領に直接会って「政治家として一番大事なことは何ですか」と質問したところ、即座に「それは勇気である」と答えたという。勇気なくしては、思い切った発言し、行政や住民に訴えて説得し指導することができないというのである。

「今日できることは明日にのばすな」は、夏休みの常套句。しかし、私は「明日できることは今日するな」とばかり、切羽詰るまでできなかった。あの時代、もっと夏休みを上手に使っていれば……と思わないわけではないが、あの当時は、毎日が家の手伝いで、サッカー部に所属していたが、合宿以外は練習にも行けなかった。

今の子ども達は、練習に行くのにも親に送ってもらい、親が子どもの手伝いをしているのだから、まったく逆である。

オヤジの時代は、クラブ活動など遊びに行かせてもらっているような感じで、遠慮したものだが、今は、クラブ活動へ行くことが家計のために出稼ぎにでも行ってもらっている状態で、「お疲れ様でした」と親が挨拶しなければならぬような感じである。

玄關の掃除をするとか、洗濯をするとか、料理をして親父に冷たいビールでも飲んでもらおうとか少しは思ったらどうだ。

肌身離さず四六時中、携帯電話に飼いの傾けられずに、飯を食う時から寝る時まで、否、寝ていても携帯電話を握っている姿を見たこ

とがある。ある大学が、夏休み期間中、外国に短期留学をしたところ、留学先の大学では、ケータイ電話の使用が禁止されていたため使えずにいたら、不自由で、何かが満たされないような不思議な不安定感につつまれたという。

それを感じなくなるまで2週間かかったようで、まさに麻薬中毒のような依存症だという。

しかし、学生は、ケータイが使えるようになってから、だんだん物事を自分でゆつくり考えるようになってきたという。ケータイでは、自分の悩みは自分で引き受けるという自律心が育たない。

子どもだけの話ではない。議会でも打ち合わせ会議になると、会話中、平然とメールをする人がいて、不快感を感じる場面が多くなった。

そういえば、継体天皇即位一五〇〇年を話題にしたとき、ケータイ電話を取り出した若者がいたが、さぞかし、継体天皇も草葉の陰で嘆いておられるだろう。

▼戦争と平和を考える夏。

あの当時、本当に勇気のあった人は戦争に反対した人たちであつたかもしれない。

斎藤隆夫の雨軍演説は何度読ん

でも感動する。かつて、ある有名な外交官がアメリカの故ケネディ大統領に直接会って「政治家として一番大事なことは何ですか」と質問したところ、即座に「それは勇気である」と答えたという。勇気なくしては、思い切った発言し、行政や住民に訴えて説得し指導することができないというのである。

また、その外交官がイギリスの故チャーチル首相に同じ質問をしたところ、「それは奮起である」と答えたという。議員自らが奮起して発言し、行政当局と住民に訴えてこれを奮起させてこそ、行政の地域の振興発展も実現し、真の指導性の発揮ができるというものである。

「勇気とは何か」を質問されたら、「蟻のお話」を聞かせてあげて欲しい。

▼演歌が嫌い、客に涙を見せる歌手は最低だという淡谷のり子は、「お客を泣かせるのがプロでしょ、自分が泣いてどうするの」と「じよばり」（津軽弁で強情者）ぶりを発揮してき

た。しかし、その彼女が一度だけ、客の前で泣いたことがある。

太平洋戦争の末期、国内の基地や前線へ慰問にまわっていたころだった。白い鉢巻をした若

い兵隊たちが客席の一隅にいた。上官が、特攻隊です。途中で命令が下りた時はお許しを」と断りを入れる。

その言葉が気になりながら、胸中の動揺を隠して歌っていると、一人が立ち上がり、舞台の前進み、にっこり笑って敬礼した。まだ、幼い感じの顔だった。そんな若者たちが次々と同じように敬礼をして去って行く。胸がつまって、淡谷は歌えなくなった。

「すみません。少し泣かせて下さい」

そうやって彼女は客席に背を向け、声をあげて泣いた。



「このごろは歌屋しかないわね」青森生まれのズースー弁で、淡谷のり子はスバリと言った歌手ではなく、歌屋今の政治家を見たら何というだろう……。

「雨よ降れ降れ 悩みをながすまで……」

「雨のブルース」は戦意を昂揚させないとして、国内で発売禁止になった。しかし、兵隊たちが盛んにこれを歌ってほしいというから、生来の反抗心もあって、淡谷は思いっきり歌った。

すると、将校たちがスーッと席をはずす。立場上、見て見ないふりをする、その将校たちも、窓のかげに隠れてそっときいていたという。

舶来の香水をつけ、黒いロングドレスにけばい化粧で歌う彼女に、軍部の目も光っていた。それで、コンサート会場で、軍刀を突きつけられたことがある。

しかし、彼女は怯まなかった。「このドレスが私の軍服です」こう居直る淡谷に、軍人が、

「殺すぞ」脅迫した。「私を殺して戦争に勝てるならどうぞ」

こんなに度胸のある彼女も、未婚の母となって生んだ娘には弱かった。ろくに娘と顔を合わせる暇もない淡谷は、一カ月ぶりに帰った自宅で、その娘に、

「あんた、だれ。帰れ！」と怒鳴られた。

「お父さんを買ってちょうだい」と言われ、

「あれはいま、品切れなの」と逃げたこともある。

「このごろは歌屋しかないわね」青森生まれのズースー弁で、淡谷のり子はスバリと言った歌手ではなく、歌屋今の政治家を見たら何というだろう……。

「楽しいことばかりだったわ、戦争を除いては。いまの世の中はだめよ。個性と知性がないもの。あなたたち、お気の毒ね。こんなつまらない時代を生きるなんて」

遺言のような決めゼリフである。（あのうが聴こえますか／毎日新聞社）

▼ほつとらいん59号 書き終えてやっと夏休みの宿題を終えた気分です。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれる」となれた様も、実り多い秋となりますように。

次号は60号です。皆様からのご意見などお便りをお待ちしています。